

アグス・ファナル・シュクリさん / 電気通信大学

Dr. Agus Fanar Syukri / The University of Electro-Communications (UEC)

<外国人研究者 プロフィール Profile>

国籍: Nationality:	インドネシア / Indonesia
日本留学時の滞在期間: Period of Stay During Studying in Japan:	1989年4月1日 ~ 2005年3月31日 Apr 1, 1989 - Mar 31, 2005
日本留学時の大学: Educational Background In Japan:	電気通信大学 大学院情報システム学研究科社会情報学専攻(博士) 北陸先端科学技術大学院大学情報システム学科(修士) 佐賀大学情報科学科(学士) The University of Electro-Communications (UEC)
専攻分野: Major Field:	工学 / Quality Management System (QMS)
現在の所属/職位: Present Institution/ Status:	Indonesian Institute of Science (インドネシア科学院) Research Center for Quality System and Testing Technology(品質管理・試験技術研究所)



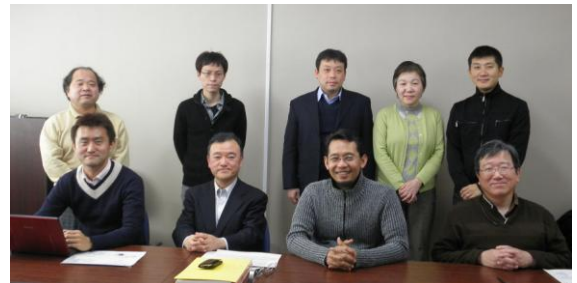
<研究報告 Follow up Research Fellowship>

受入研究者氏名: Research Adviser:	太田 敏澄 教授 / Professor Toshizumi Ohta
受入れ期間: Researching Period:	2010. 12.01-2011.02. 28(90日間) Dec 1, 2010 - Feb 28, 2011
研究課題: Theme of Research:	品質管理成熟度測定手法の開発 Developing a measurement instrument for the Quality Maturity

アグス・ファナル・シュクリ
さん
Dr. Agus Fanar Syukri

■研究概要 Outline of Research

日本が高度な品質管理文化を保持していることは、1970年代より世界中によく知られている。その後、日本の品質管理は、1980年代より、米国やヨーロッパ等へ広がっていく。そこで、本研究では、先進諸国の品質管理の文化がどのように出来ているかについて、理論と実態の把握を試みることにした。このため、品質管理文化の成熟度をどのように測定するか、どんな方法が存在しているかについて、文献調査やQMS認証機関の担当者などを中心としたインタビュー調査を行った。



太田敏澄研究室のメンバー
Member of Toshizumi Ohta Laboratory

■研究成果 Result of Research



素晴らしい環境に、素晴らしい友情

It is a nice time for friendship with other foreign students.

1. 文献調査やインタビュー調査に基づき、品質管理文化成熟度に関するモデルを提案した。
2. このモデルに基づいて、品質管理成熟度の基礎レベルに対し、Balanced Scorecard (BSC)による測定手法を提案し、在日インドネシアの15団体(45人の役員)を被験者として、手法の妥当性検証を試みた。
3. 同様の被験者に、品質管理成熟度の標準レベルに対し、Critical Success Factors (CSF)による測定手法を提案して、手法の妥当性検証を試みた。

■日本留学の思い出 Memories of Studying in Japan



日本の四季は、日本に住んでいる人々が、時間やスケジュールや活動を上手に設定しなければいけない。そして、大学や都市は清潔で、美しい風景、フレンドリーな人々、活気のある科学的な議論、おいしい食べ物、研究には理想的な場所である。私はインドネシアの研究者として、いつもそのような理想的な研究サイトに憧れている。そのような理想的な場所よりいくつかの論文が生まれていた。しかし、インドネシアの研究環境が完全な日本のように良いとは思っていないが、研究者として論文などを生成しなければいけないと思う。なぜならば、様々な環境の制限があるからこそ、人はより強い人になるように訓練され、より良い未来に向かって、直面する問題を解決する方法を学んでいく。

データ収集や研究調査の為に、JQA訪問
Visit JQA for research and data collection



アグス・ファナル・シュクリと太田敏澄先生
Agus Fanar Syukri & Prof. Toshizumi Ohta